

赤神山

赤神山
(あかがみやま)
赤神山とは、太郎坊大神様がお鎮まりになる近江国高天原、すなわち太郎坊山の御名です。



↑ 太郎坊宮HP ↓

発行日 令和三年六月一日
題字 陸軍大将 一戸兵衛
発行者 太郎坊宮社務所

東近江市小脇町二二四七番地

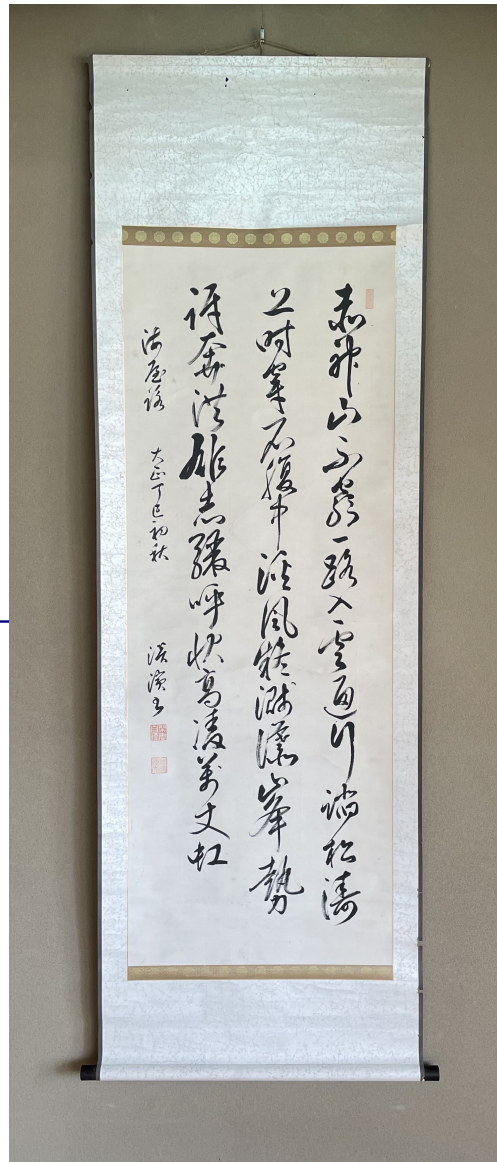
ご挨拶

太郎坊・阿賀神社宮司 奥田素之

赤神山は人々を寛大に迎え入れる雲山であり、その道のりは雲上の高天原へと真つ直ぐに通じる。尊き神にまみえるため、松の樹を渡る風の上を往き、時に大岩をも貫き歩みを進める。

駆け抜ける風は滝のように強く、山頂の姿は荒波かと思紛うほどに激しい。神の御加護によって願いを遂げた歓喜の雄叫びは、空高くにかかる虹をも遙かに超えてゆく――

この詩文は、貫名海屋（ぬきなかいおく）という江戸末期の書家が当神社を詣でた際、献詠した漢詩を意識したものです。僅か四十文字の漢詩文ですが、赤神山を登拝した



貫名海屋詠『赤神山』大正六年（1917）淡濱書

際に感ずる「畏れ」と「敬い」の想い、更には大神様から尊いご加護を享受した喜びが溢れています。

当神社が建つ山系は「神宿る霊山」と崇められた聖域で、かの聖徳太子も万民幸福を願い、祈りを奉げた山です。この霊山に祀る神様の靈威に感銘を受けた聖徳太子は、山を指し示して「吾が神の山（あがかみのやま）」と呼び称えたといわれます。後にこの賛辞は「あかがみやま」へと転訛し、赤神山の字を充てる

ようになります。

この伝承は赤神山の名の由来を説くだけでなく、この地の神様が「吾が神」即ち私達に寄り添って下さる神様であることを物語ります。世界を覆う疫病の消滅を願い、皆様と真摯な祈りを奉げ続けたく思います。

この貫名海屋は「幕末の三筆」と称揚される能書家ですが、数多の艱難を被っています。しかし如何なることにも挫けず筆を執り、研鑽に励んだそうです。海屋の不屈の心に学ぶべきところ大、と痛感致します。

社務日誌 (抄)
参集殿日誌 (抄)

- 一月 歳旦祭
太郎坊宮敬神講社新春祈願祭
功績者表彰式典
古神札焼納祭
献灯講講社祭
社守講講社祭
- 二月 節分厄除大祭
山形實氏大燈籠奉納奉告祭
厄除招福神事
紀元祭
天長祭
祈年祭
- 三月 東近江青年会議所様
例祭
創立十五周年記念植樹
毎日放送様
よんチャンネルTV生放送
- 四月 昭和祭
- 五月 竹村昇祐氏大燈籠奉納奉告祭
お田植大祭
太郎坊宮敬神講社評議員会
- 六月 夏越大祓式
毎 月 二十三日 月次祭

諸祭事を齋行しました

令和三年上半期の諸祭事は、崇敬各位のご奉賛により滞りなく行いました。此処に改めて御礼申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、一部の祭事では神職のみによる齋行、参列者人数の制限、付帯行事の縮小等を実施しました。

◆功績者表彰式典

当社社の護持発展に特別の功績があった方を表彰する式典です。新型コロナウイルス感染症の流行状況を見極めつつ、時期を変更して開催しました。

本年度は、左記



- 日野 支部 小西 英次 様
- 五個荘支部 近藤 勝郎 様
- 長浜 支部 山根喜代子 様
- 氏 子 吉田ちる子 様

◆節分厄除大祭

年寿者十一名、福娘、東近江青年会議所キャラクター「かあくろう君」のご奉仕により実施。招福神事の福豆・福餅まきは、ソーシャルディスタンスの確保や参加人数制限を実施の上で行いました。



◆例祭

太郎坊宮で最も重要とされるお祭りです。神社本庁より献幣使をお迎えし、関係役員ご参列のもと、国家の安泰と地域の繁栄を念じて厳かに行いました。



各種ご奉納の御礼

境内中腹の山上駐車場広場内に、新しく石造大燈籠を二基建立戴きました。
 ←氏子・山形實様



←守山市・竹村昇祐様



また、年始には新春を賀して役員及び崇敬者の方々から多くの献納品を奉納戴きました。紙面の都合上、全てのご紹介は叶いませんが、此処に御礼申し上げます。

◆お田植大祭

農業を始めとする様々な産業の発展と安全、無事を祈る大祭です。

今年度も付帯の行事は自粛とし、神事のみを厳粛に行いました。小雨模様のなか、神職と田祭を司る大田主、数名の役員のみが参列。新型感染症の鎮静祈願も併せて行いました。

また、本年も八日市の大風文化を伝承する崇敬者有志が製作した「祈願の大凧」が奉納され、NHKなどの報道陣に公開されました。



第二駐車場整備を進めています
 ★健康のため、ここから歩いての
 お参りをオススメします

昨年十一月に新設されたドライブウェイ脇の第二駐車場。現在、各位のご芳志を得て屋外灯の設置や植樹などの緑化整備を進めています。また、四月二十二日には、公益社団法人東近江青年会議所様より設立十五周年を記念した植樹を頂きました。



太郎坊宮敬神講社本部謹告

去る令和三年五月三十日、本講規約に則り、各種感染症対策を実施の上で令和三年度太郎坊宮敬神講社評議員会を開催致しました。評決の結果、本年の敬神講社本部主催の研修旅行は実施を見合わせる事となりました。右、ご報告申し上げます。

聖徳太子一四〇〇年祭「近江の聖徳太子・魅力発信」事業の実現に向けて



→ 『聖徳太子尊像』部分（当神社蔵）

聖徳太子没後一四〇〇年の節目にあたる令和四年。聖徳太子伝説を有する東近江の社寺が中心となって「近江の聖徳太子・魅力発信」事業を行います。

既に東近江地域の各社寺では宝物や秘伝の特別公開が予定されているほか、限定ご朱印の授与などが計画されています。

また、事業の一環として、聖徳太子に係する社寺の由緒を題材にした「江州音頭」の製作や、聖徳太子の威徳を偲んだテーマソング「天子の雫」のリリースなど、徐々に活動が拡がりつつあります。



「冠位十二階」や「十七条憲法」を作ったことで有名な聖徳太子。今から一四〇〇年ほど昔の人物です。

天皇の息子として誕生した聖徳太子は、小さなころから大人顔負けのかしこい子どもで、スポーツなども得意でした。大きくなってからは天皇と一緒に政治を行い、みんなが幸せに暮らせるよう力を尽くしたといわれます。

そんな聖徳太子ですが、たくさんの方シギな伝説を持つ人でもあります。「重い病氣の人をすぐに治した」とか、「どんな勝負事でも、絶対に負けなかった」とか。更には「空飛ぶ馬に乗って、日本中を旅行した」というものもあります。

奈良時代ごろには、聖徳太子が持つ特別な力にあやかるうとする太子信仰が発生します！



さまざまな伝説が各地に残る聖徳太子ですが、日本で最も多くの聖徳太子伝説が語り継がれる場所…。それは、なんとこの東近江地域なのです。

次号では、太郎坊宮に伝わる聖徳太子の伝説をご紹介します。

※下写真は聖徳太子が開いたと伝わる「観音正寺（近江八幡市）」です。



表紙解説

今号表紙には当地「赤神山」にまつわる漢詩を記した掛軸を取り上げました。流麗な筆致で「赤神山不巖 一路入雲通行踏松濤上 時穿石腹中 涇風疑濺瀑 峰勢訝奔洪 作志驟呼快 高凌万丈虹」との詩文が書かれています。

詩文の脇に「海屋詠」「大正丁巳初秋」「淡濱書」との記載があります。このことから、貴名海屋が詠じた漢詩を大正六年に淡濱（経歴不詳）という人物が書いたものであることが判明します。紙本墨書。不定期公開。

—太郎坊尊の大祭典—
千日大祭のご案内
 (七月二十三日・二十四日)

—千日大祭に参拝すれば、
 千日間の参拝と
 等しきご利益を得る—

こう言い伝えられる、
 太郎坊宮・千日大祭。
 「太郎坊尊の大祭典」と
 讃えられた千日大祭は、
 数百年の歴史を持つ祭礼
 です。

今年も古式にのっとり、
 諸願成就の大祈禱を執り
 行います。大祈禱では、
 皆様に太郎坊大神様の尊
 いご加護があるようお祈
 りし、巫女による神楽の
 舞を特別に奏でます。

また、大祭期間中は境
 内のライトアップを実施。
 神秘的な空間を描き出し
 ます。

◆千日大祭 大祈禱

(午前九時から午後四時)

千日大祭期間中のみ行う大祈禱。特別
 祈願神札等をお授けします。



◆千日大祭 各種催し

◆特別な「おまもりづくり」
 千日大祭期間中だけの特別なおまもり
 づくり体験をご用意。

◆奉納ふうりん受付
 風鈴の短冊に願いを
 書き、涼やかな音色と
 共に神様へささげます。
 昨年好評だったふうり
 ん絵付け体験も開催し
 ます。

◆千日大祭参拝記念ご朱印
 千日大祭の祭日に参拝された方だけに
 特別な御朱印をお授けします。

◆奉納花火大会
 神様へ奉納され
 た花火が、夜空を
 彩ります。七月二
 十四日実施検討中。

※新型コロナウイルス感染症の状況に
 より、一部催事が中止または縮小に
 なる場合があります。



新しい授与品のご紹介

◆運氣上昇龍神守 一〇〇〇円

境内に祀る赤神龍王尊の御前で祈った、
 運氣上昇の
 お守りです。
 薄型勾玉状、
 チェーン付。



◆ペット幸せ守 一〇〇〇円

大切な家族が、いつも幸せであるように
 祈願した御守です。ゲージや散歩バッグに
 取り付けて下さい。パワーストーン付。



※六月下旬頃、
 授与開始。

◆あかね赤米 一五〇〇円

太郎坊宮が見守る東近江・蒲生野で生産
 された、赤いお米で
 す。めでたい事を象
 徴する赤色のお米は、
 大昔から特別な力を
 宿すと信じられました。
 一キログラム。



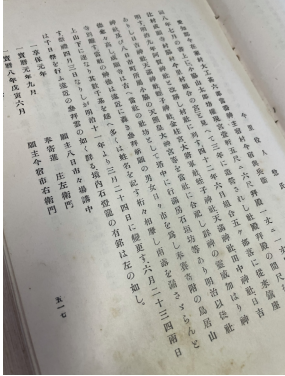
―鳥居よ、よみがえれ―

木製鳥居寄進のご案内



鳥居とは、神社の入口などに建てられた「聖なる門」のことです。神さまへの祈りや感謝の思いを込め、大昔から寄進（きしん、神さまにお供えすること）され続けてきました。

大正六年（一九一七）の『近江蒲生郡志』には、太郎坊宮の鳥居は「山の上下に連なり、その数は一〇〇〇基を越える」「寄付者の名前が書かれている」「雨水も濡れないほどに立ち並んでいる」と書かれています。



→『近江蒲生郡志』



一〇〇〇基を越えた鳥居ですが、戦後は良質な木材の確保が難しくなった事などから、次第に減少してしまいました。しかし、神さまに祈りと感謝をささげる心は、昔も今も変わりません。数百年前の伝統のままに「祈り」と「感謝」を鳥居にこめて――。
太郎坊大神様の御前へご寄進下さいませよう、ご案内申し上げます。

◆木製鳥居寄進についての詳細

- ・一基八万円 建立費、お祓い料、名前の筆記料などを含みます
- ・特典など
 - 一、鳥居本体へお名前やお願い事を直接お書きします。
 - 二、神庫収蔵台帳でお名前などを永久保管します。
 - 三、記念品を贈呈します。
- ・申込書や資料をご希望の場合
神社内の受付またはお電話やメールでご請求下さい。

今後の主な神事予定

- ◆夏越大祓式（六月三十日）
- ◆合祀祭（七月十五日）
- ◆献茶祭（七月二十三日）
- ◆千日大祭（七月二十三・二十四日）
- ◆観月祭（九月二十一日）
- ◆抜穂祭（九月下旬）
- ◆秋季講社大祭
- ◆一願成就社報恩祭（十一月三日）
- ◆新嘗祭（十一月二十四日）
- ◆献菊祭・菊花展（十一月下旬）
- ◆七五三参り（十一月中）
- ◆お火焚大祭（十二月五日）
- ◆大祓式（十二月三十一日）